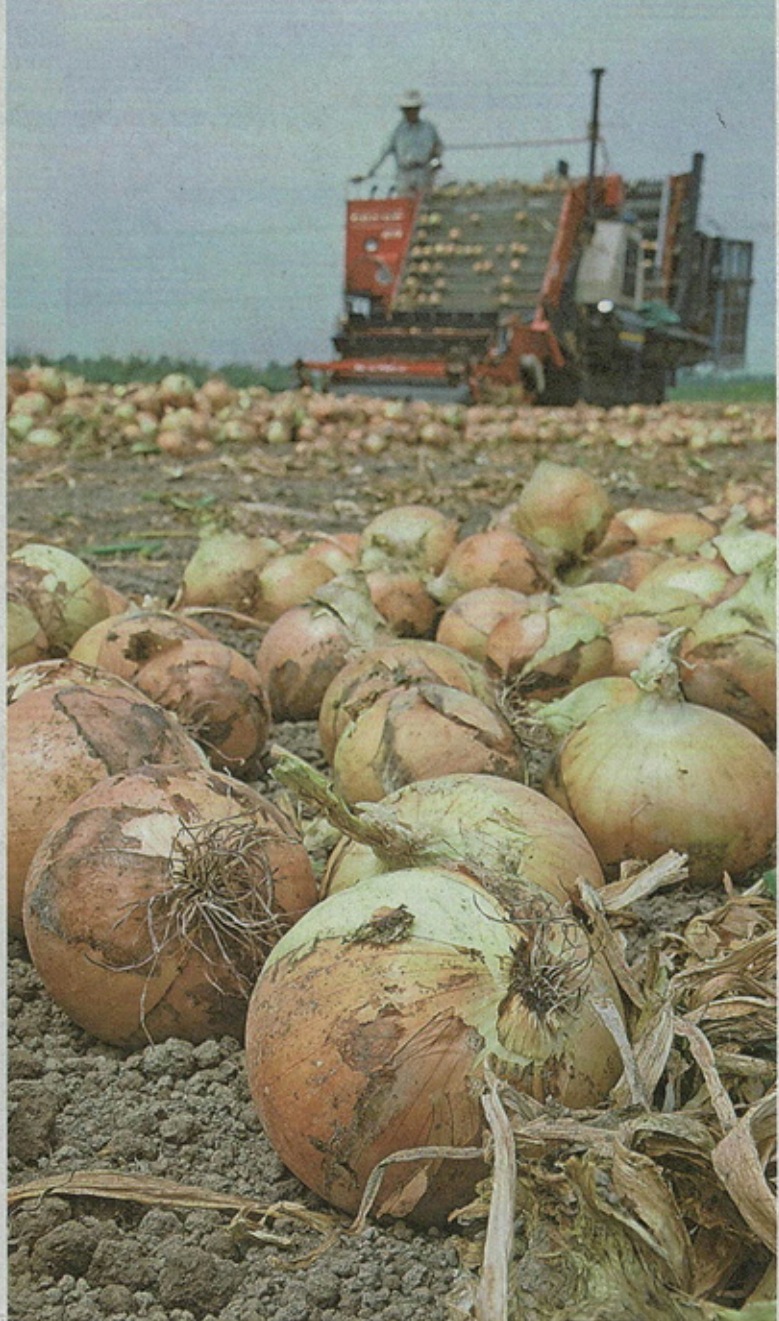




岩見沢の農産物収穫「タマネギ」始まる

いわみざわ農協管内で収穫作業が始まったタマネギ畑



空知を耕す

【岩見沢】道内有数のタマネギ産地のいわみざわ農協管内のトップを切って26日、市内若松町の鎌田保夫さん(72)の畑でタマネギの収穫作業が始まった。

鎌田さん方では今年、3種類のタマネギを10畝に作付けた。そのうち丸々と

タマネギ今年は大玉

岩見沢で収穫作業始まる

成長した極わせ品種の「北はやて2号」全0.5畝分を14日、土から離す「根切り」をし、畑で乾燥させていた。26日から2日間かけて機械を使って同品種をコンテナに詰め込んでいる。

今年も好天に恵まれ、昨年よりも大玉に育ったという。鎌田さんは「甘みが程よく、順調に育った」と話した。

同農協によると、管内(岩見沢市、三笠市など)でのタマネギの作付面積は昨年の1241畝より減少した。収穫は8月下旬から9月中旬にかけてピークを迎えるという。

ダムの流木 無償譲渡

「夕張シューパロ」量は全道最大

あすから乾燥させ 大半まき用

【夕張】総貯水容量全道一位、全国4位の夕張シューパロダムでは、電撃的に水が貯められ、夏場に大量の流木が流れ着く。放置すると本体が傷むため、管理者である関係団体夕張川ダム管理事務所(夕管)が、この時期、流木の除去作業を行っている。除根や根際を削り取った流木は全道最大規模となるが、家庭用のまきとして活用されており、28、30日に連続公開される。

ダム湖側の山に枯れた体幹のみならず、取り除かれた樹木の木の葉や枝が、川に流れ着くと、ダム湖の水を汚すおそれがある。夕管は、この時期、ダム湖に流入した流木を乾燥させるため、28、30日に連続公開される。夕管では、この時期、流木の除去作業を行っている。除根や根際を削り取った流木は全道最大規模となるが、家庭用のまきとして活用されており、28、30日に連続公開される。



うずたかく積まれた夕張シューパロダムにたまった流木

自宅にいながら岩見沢の旅

オンラインツアー、移住者が案内



【岩見沢】移住者の交流を促進し、岩見沢の魅力を伝えるオンラインツアーが26日、初めて開催された。道内外から参加した約80人が参加し、移住者や関係者を案内する。このツアーは、移住者の生活の様子や、岩見沢の魅力を伝えるため、移住者や関係者を案内する。このツアーは、移住者の生活の様子や、岩見沢の魅力を伝えるため、移住者や関係者を案内する。このツアーは、移住者の生活の様子や、岩見沢の魅力を伝えるため、移住者や関係者を案内する。

持ち帰りもよいという。いずれもチェーンソーを使用して自分で切断し、軽トラなどに乗せて持ち帰ることができる。関係者は「移住者の生活の様子や、岩見沢の魅力を伝えるため、移住者や関係者を案内する。このツアーは、移住者の生活の様子や、岩見沢の魅力を伝えるため、移住者や関係者を案内する。」

小・中学校適正配置計画策定

小中一貫教育導入へ

【岩見沢】市教育委員会はこのほど、2028年度までに5小4中を対象に学校規模の適正化などを目指す

「市内小・中学校の適正配置計画」を策定した。対象校のうち、北村、栗沢両地区の小、中学校には小中一貫教育の早期導入を目指すし、関係機関のほか保護者や地域と意見を交わして検討を進める考え。

計画の対象校は幌向小、第二小、北真小、北村小、栗沢小、豊中、上幌向中、北村中、栗沢中。2028年度を前期、24、28年度を後期に区分し、前期4方で北村、栗沢の両地区で小中一貫教育の導入を進める。検討では、北村地区で既存の校舎などの有効活用を想定。栗沢地区は校舎改修も踏まえて進めていく。

ほかの5校は、今後の児童生徒数の推移などを踏まえ、23年度までに方向性を示し、配置のあり方を検討する考え。

【新田一寛】

昨今の気候は農産物にとって、日照、気温、温度差など、農業者には、とても条件に恵まれ、すでに秋まき小麦は刈り取りも終了に近づきほどほどの収穫とお聞きしております。今後は天候次第ではありますが、9月の中旬から稲刈りが始まるとも聞いております。

これからは、野菜として、白菜、ほうれん草、長ネギ、にんじん、小豆などが秋に向かって農家の方々も、大変忙しい時期を迎えます。これからは、自然災害である、大雨などが来ないことを願うばかりです。